

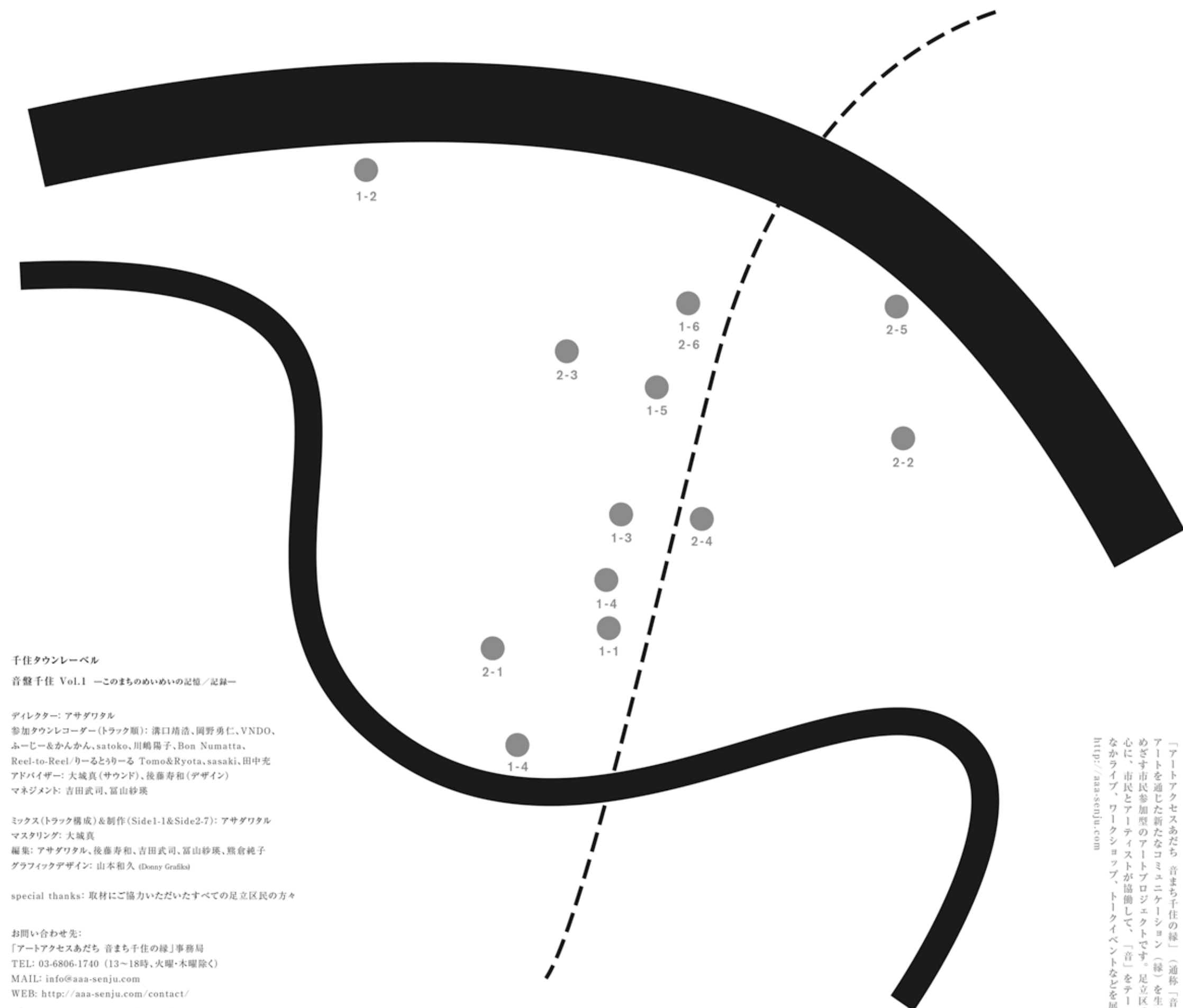


音盤千住

Vol. 1

—このまちのめいめいの記憶／記録—

千住タウンレーベル



千住タウンレーベル  
音盤千住 Vol.1 —このまちのめいめいの記憶／記録—

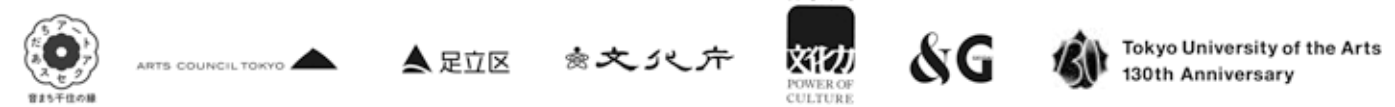
ディレクター: アサダワタル  
参加タウンレコーダー(トラック順): 溝口靖浩、岡野勇仁、VNDO、  
ふーじー&かんかん、satoko、川嶋陽子、Bon Numatta、  
Reel-to-Reel/リールとリール Tomo&Ryota、sasaki、田中光  
アドバイザー: 大城真(サウンド)、後藤寿和(デザイン)  
マネジメント: 吉田武司、富山紗珠

ミックス(トラック構成)&制作(Side1-1&Side2-7): アサダワタル  
マスタリング: 大城真  
編集: アサダワタル、後藤寿和、吉田武司、富山紗珠、熊倉純子  
グラフィックデザイン: 山本和久 (Donny Gotski)

special thanks: 取材にご協力いただいたすべての足立区民の方々

お問い合わせ先:  
「アートアクセスあだち 音まち千住の緑」事務局  
TEL: 03-6806-1740 (13~18時、火曜・水曜除く)  
MAIL: info@aaa-senju.com  
WEB: http://aaa-senju.com/contact/

※「info@aaa-senju.com」からのメールを受信できるように設定してください。  
※個人情報保護法に基づき、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。



主催: 東京都・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)・東京藝術大学音楽学部・大学院国際芸術創造研究科・特定非営利活動法人音まち計画・足立区  
平成29年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

「アートアクセスあだち 音まち千住の緑」(通称「音まち」)は、  
アートを通じた新たなコミュニケーション(緑)を生み出すことを  
めざす市民参加型のアートプロジェクトです。足立区千住地域を中  
心に、市民とアーティストが協働して、「音」をテーマにしたまち  
なかライブ、ワークショップ、トークイベントなどを展開します。  
<http://aaa-senju.com>

本書(盤)は「アートアクセスあだち 音まち千住の緑 アサダワタル「千住タウンレーベル」」の一環で制作されました。  
本事業は「東京アートポイント計画」として実施しています。



VNDO

『千住D-1グランプリ 2017』

かつて「やっちゃん場」として栄えた千住には、せり声・だみ声が溢れていました。今でも市場や魚屋さんなどに行けば、長年使い込んだいい声を聴くことができます。そこで、千住で一番いい声だみ声の持ち主を選んでみることにしました。だみ声の「D」から、名付けて「千住D-1グランプリ2017」の開催です。千住一の美声の持ち主は一体誰になるのでしょうか？ 足立市場の早朝のせりの合図でコンテストが始まります。



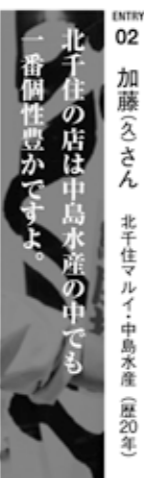
ENTRY 01 宮島さん 足立市場・豊長商店 (歴30年)

この声は大好き。でもそれで得たことはないなあ。



ENTRY 05 板橋さん 足立市場・杉田屋 (歴57年)

30年くらい前からセリ自体がなくなってきたからね。



ENTRY 02 加藤さん 北千住マルイ・中島水産 (歴20年)

北千住の店では中島水産の中でも一番個性豊かですよ。



ENTRY 03 加藤博之さん 北千住マルイ・中島水産 (歴20年)

二人の加藤で切磋琢磨して一緒に頑張ってきました。



ENTRY 04 長島さん 足立市場・東長 (歴57年)



千住の少年野球の關係でオレ知らない奴はいないよ。



ENTRY 06 増淵さん 学園通り旭町・杉本青果店 (歴30年)

やっぱ声は腹から出さないとねえ、ダメなんだよね。



ENTRY 07 田久保さん ミリオン通り・魚三商店 (歴56年)

子供の頃からここで、これまで50年程やって来たよ。

だみ声とは、多岐な表現方法がある。音程、リズム、息遣い、抑揚、強弱、滑舌、発音、口調、感情、個性など、多岐にわたる。その中でも、だみ声の個性は、その人の個性を最もよく表している。だみ声の個性は、その人の個性を最もよく表している。だみ声の個性は、その人の個性を最もよく表している。

satoko

『Sound Portrait\_Senju #00002・Mother's day.』

あるひかみさまがおかあさんをきめようねっていろいろアドバイスしてくれてわたしがおかあさんをえらんだんだ。

あの一ひがわたしのおかあさんだねっていったらでんしがにこにこなすいてくれたの

(うまれるまえのおはなし…ひだのかな代)

2017年5月14日、たこテラスで行われた母の日のよみきかせ会のライブ録音です。ふと沈丁花の香りを嗅いで季節の移り変わりを感じるように、録音がそのときのかけがえのない思い出や感情を思い出す一助となれば素敵だなと思います。こどもと大人の演奏、お話し、うた、笑い声：過ぎ去っていく時間の断片を聴いて、あなたは何を思い出しますか？



ふーじー&かんかん

『千住お店の声トラック 伊勢屋さん』

『千住お店の声トラック 鳴門鯛焼本舗さん』

北千住の商店街。ちよつとそそられたお店にふらりと入る。「いらっしやいませ」「ありがとうございます」...ありふれた言葉だけど、あたたかい言葉。雑踏とともに聞こえるその言葉たちを受け止め、または受け流す人々。ゆっくりと北千住の一日が過ぎてゆく。



川嶋陽子

『師匠と囃子』

師匠の現在の弟子は約40人である。お囃子はリズムを言葉で表している唱歌を覚えて練習していく。篠笛は特に師匠が吹くフレーズを聞いて、音程やリズムを覚えたり、指を教してもらいながら、曲の一つ一つのフレーズを覚えていく。お囃子は口伝の部分が多く、受け継がれていくには、師匠の存在がとて大きい。神社がそこに存在する限り、共にお囃子が受け継がれていくために、師匠の知っている全てを伝えようとしていく。またそれを受け継ぐ次世代の師匠が生まれていく。

神社と共に  
お囃子は続いていく

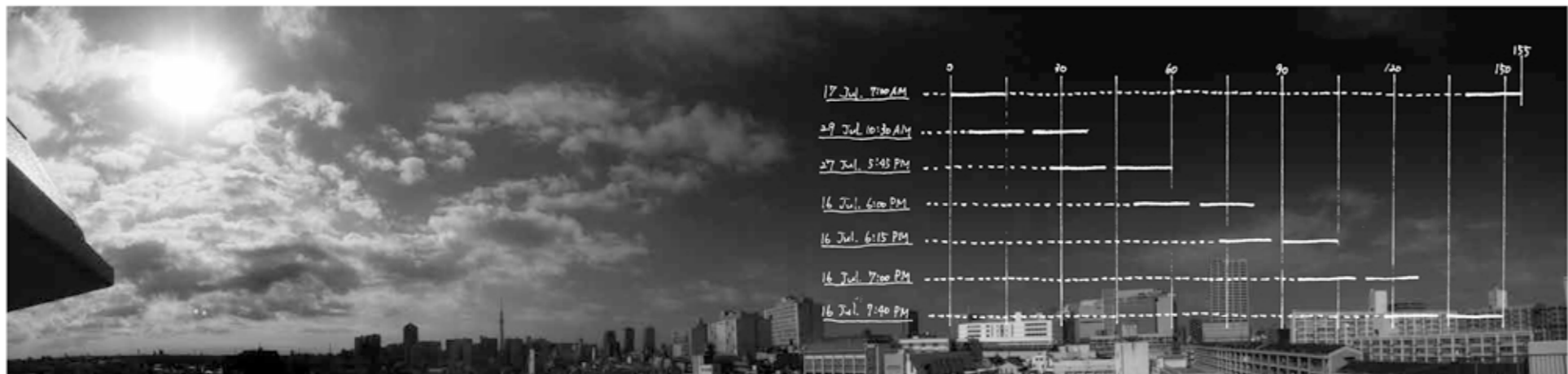


Bon Numatta  
『Isu-na-garu』のポッタ

「ポッタ」は、駄菓子屋さんの奥座敷でこどもたちが食べる料理だった。40年ほど前まで駄菓子屋さんにはお好み焼きテーブルがあり、それを開いて「ポッタ」を焼きながら会話を楽しんでいた。そして、理由はわからないが千住地区だけこの料理を「ポッタ」と呼んでいた。同じように駄菓子屋さんで食べるこの料理は千住地区以外にもあったが、足立区のほかの地区や台東区・墨田区・荒川区などでは「もんじゃ」と呼んでいた。しかし、現在のお好み焼き屋さんで提供される「もんじゃ」は「ポッタ」ではない。具材が多過ぎるのである。よって、「ポッタ」を再現するには、具材を先に焼いて胃の中へ片付けるといった美味しいうれしい準備が必要になる。そして、ドンブリに残る汁とわずかなキャベツを調理しながら会話の合間にそれぞれが自由に気ままにゆっくりと焼いて食べることが「ポッタ」なのだ。広く焼いた「ポッタ」をみんなで取り分けることもあれば、それぞれが小さく焼くこともある。ペーパースターラーメンを入れる人もいればソフトせんべいに挟んで食べる人もいる。鉄板に絵を描きながら焼いたり、思いつく文字を焼いて遊ぶこともできる。鉄板を開んだ人たちがそれぞれ楽しみ方を探して何かを発見することで日常から解放され会話が弾んでいく。これこそが「ポッタ」の魅力なのだ。いかなれば、「ポッタ」は個性を見せ合い融合しながら会話を楽しませ、tsuna-garuをつくることのできる至宝の料理なのである。



sasaki  
『seven clusters』



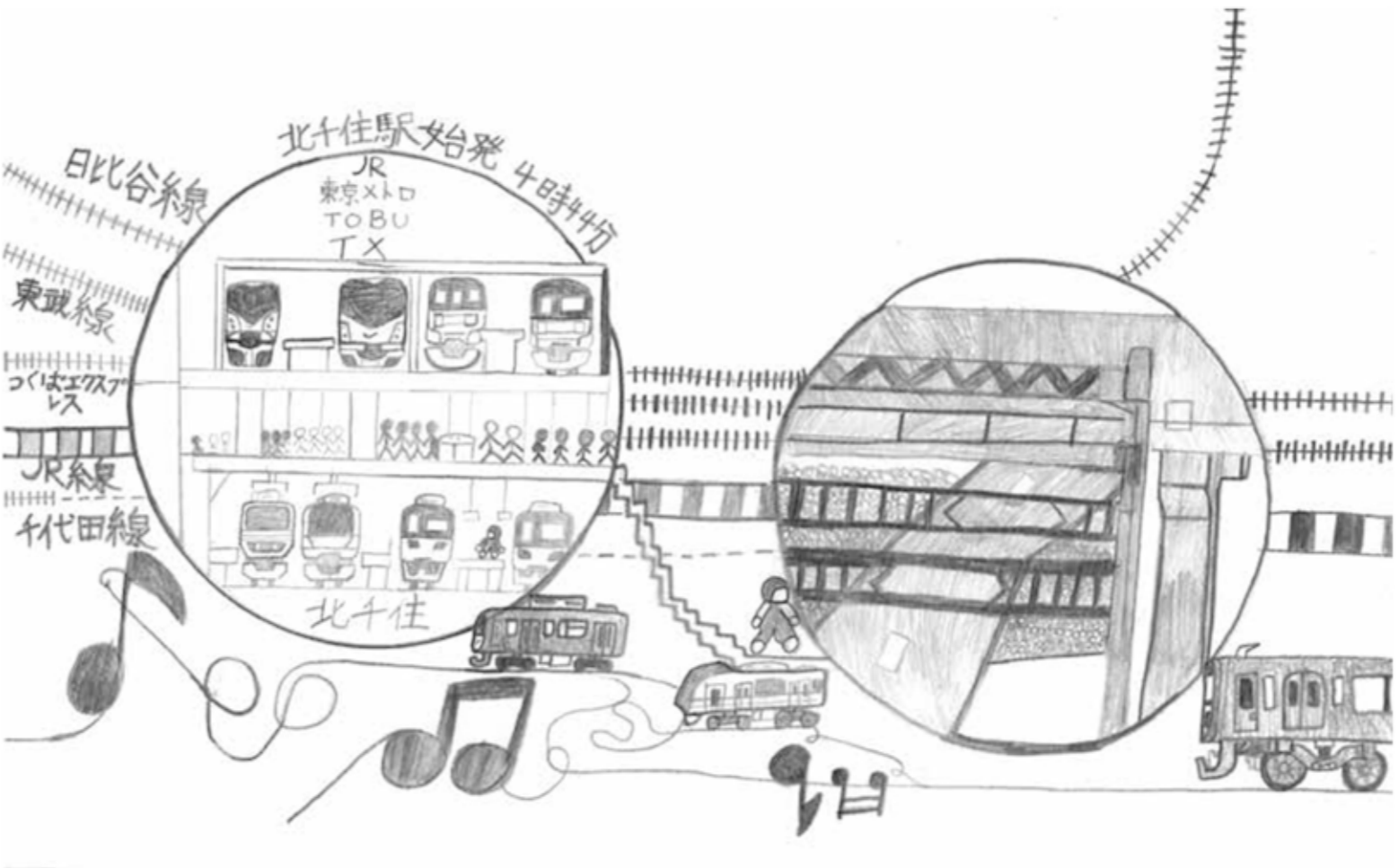
収録場所：足立区千住町某マンション高層階

まちの東側にある公園に面する上層階、角住戸のルーバルコニーは三方向に開かれ、低層の住宅地とその先のまちを見渡せます。荒川の水面、団地の屋上、駅ホーム、銭湯の煙突、家々の屋根、いくつもの学校、遠方のビル群、電波塔、そして、それらを覆う空があります。朝から夜まで立ちのぼり消えてゆく、不測の人々の往来や出来事など、それらのゆらぎや振動は、絶え間ない繰り返しのようでありながら、ふと変化に気づく、そんな連続です。そのまの時間にある反復と変化はそのまま上昇し、空が受けとめ、混ざり合い、まちの音色となります。この行為は、その空に何かを同期させ、余白を紡ぎ出すこと、その余白に、その人と時の固有の感覚が生まれます。作業は、それから小さな房を取り出し飾りのない形式をおく、それだけです。7月の数日間、早朝から夜までいくつもの空をおもむくままに記録し、そこから15秒の7つの断片を切りとり貼り合わせました。断片のひとつ目を二つ目と5秒ずらして重ね、二つ目は2秒半の無音を挟んで反復、二つ目の2回目に再び三つ目を1.5秒ずらして重ねる。その行為を七つ目を繰り返して、七つ目の2回目にひとつ目をずらして重ねれば、一周22秒になります。断片は切りとる以外の加工はせず、ただ現れ、重なり、消える、その反復です。断片はひとつから、二つになり、再びひとつとなり、無音となり、再びひとつから、二つになるという明滅です。それらの変化と経過は、時間経過に線引きされ、記憶やイメージや余韻を喚起し、区切りませ。

親子アートユニット Reel-to-Reel  
『電車エレクトロニカ』北千住駅 大踏切とター

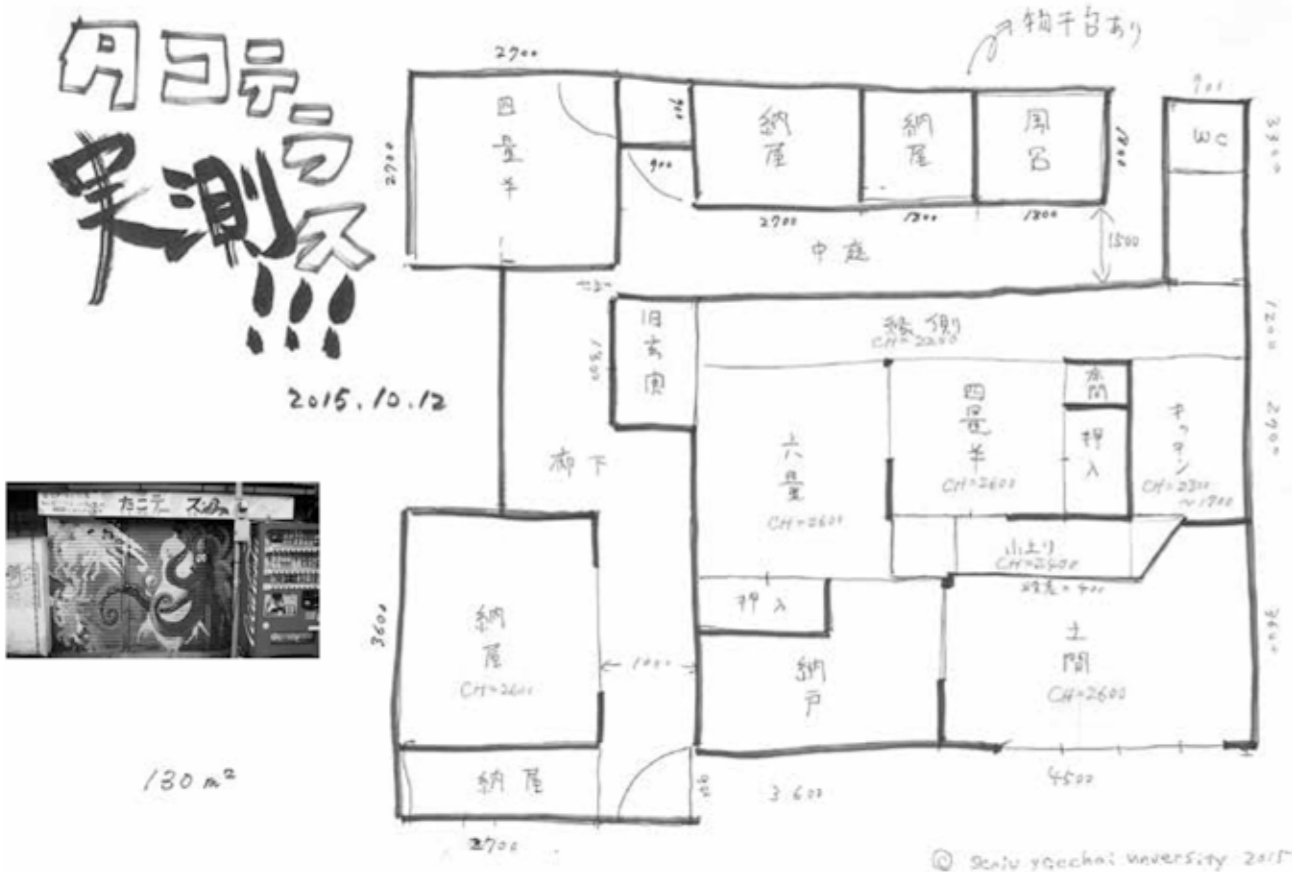
この作品は、たくさんの鉄道が集まる北千住駅周辺をテーマにし、鉄道に関わる様々な音や、当時北千住駅の工事に関わった東武鉄道の社員さんにインタビューをさせてもらったりしながら作品に仕上げました。駅構内の音や、車内の音など、普段何気なく、でも、毎日聞いている音たち。北千住駅はとにかく線路数も多く、踏切が閉まっている時間が長いのが印象深く、たくさんの方々が行き来しています。北千住駅はたくさんの方々の人達の「日常」が交差し、まるで生きているようです。そんな、今の北千住駅ならではの「音風景」を味わってみたい。『駅』は「まちの心臓」のようなもの。過去や未来の音風景もシリーズ化して製作する予定です。

【時間】4:44 (北千住駅始発の電車時刻)



田中充  
『さよなら、たこテラス』

築70年木造平屋二戸建て／北千住駅より徒歩5分の駅近物件／上下水道完備／目の前の公園にはタコの滑り台完備／風呂は離れにあるもガスなしのため使用不可／離れに床の傾いた四畳半の和室完備／用途不明ないくつもの納戸完備／トタン屋根の平屋だがバルコニーありハジゴで登るとちょうどいいつぶくスポットだが本来は物干し場完備／元自転車屋さん／通りに面するのは小上がりの付いた広い土間／自転車修理をしていたんだらうか／たこテラスと名付け音楽仲間達と改装して／主に土日にフリースペースとして開放したら／公園のことどもたちは恰好の遊び場に／昼過ぎて立て付けの悪いシャッターを開けたら／飛び込んで来るんだあいつら／ご自由にどうぞと楽器を置いていけると／ご自由過ぎてとりとめもないあいつら／時にひとり来て何も言わず電子ピアノでいつも同じ曲を弾いて去って少年もご自由か／常連の子にはおっさん呼ばわりでつい名前も覚えられなかった／2017年7月末に2年の役割を終え閉店／君らの名前は覚えていられる／自転車に乗ってすれ違おうのだから／どこかまた



【ひとこと後記】『音盤千住 Vol.1』いかがでしたか？ せひみなさんの感想をお聞かせください。また、千住タウンレーベルでは、『音盤千住』にまつわる取材・制作、イベントの企画を行う「タウンレコーダー（音記者）」を募集しています。私たちと一緒に、おもしろい地域活動、音楽活動をやってみませんか？お問い合わせ先は裏ジャケットをご確認ください！（アサダ）